

## 1. 研究目的

わが国の公園緑地黎明期には長岡安平、本多静六、原熙、折下吉延、本郷高德、田阪美徳、井下清、林脩巳といった公園緑地設計の先駆者が存在しており、近代の公園という新たな概念がヨーロッパから導入された当時において、公園緑地技術者の先駆者として活躍した。研究代表者はこれまで長岡安平の業績を中心とした黎明期公園の社会的背景および設計思想について研究を進めてきており、これまで知られていなかった各地の公園の整備経緯やデザイン手法について明らかにしてきた。わが国に公園制度が誕生しもなく 150 年を迎えようとするなか、黎明期に史跡等を活用して開設された公園緑地が文化財指定されることも多く、また当時全く新設された公園緑地についても文化財指定に向けた議論がなされており、その価値を評価するにあたり設計当初のオーセンティシティの確認は重要な視点である。

こうした黎明期の日本全国の公園緑地設計図書がいくつか現存しており、貴重な資料となっている。本研究では、現在確認できる設計図書および関連資料と現地調査から、近代に設計された公園緑地の施工がどの程度現代にまで受け継がれているかを明らかにし、都市環境の改善に資する公園緑地の存在価値を、歴史的側面から補強することを目的とするものである。

## 2. 研究方法

近代公園緑地の総体は捉えられつつあるものの、個別の検証、特に設計図書が実際にどれだけ現実の施工に結び付いたかはほとんど明らかにされていない。このため、既存の資料および設計図書による文献調査、現地調査により対象公園緑地の現況を把握した。そのうえで設計図書と現況調査結果を比較し、設計と現況との相違から未施工であるか改修の結果であるか等の分析・考察を行った。調査研究にあたっては、まず複数の事例において概要を把握し、より詳細な研究につなげるための基礎的情報の整理に努めることとした。

調査対象は、史資料の存在が明らかである樗谿公園（鳥取市）、巖島公園（廿日市市）、樞原神宮（樞原市）、高知公園・五台山公園（以上、高知市）とした。

## 3. 設計図書等の状況と公園緑地の現況

### 1) 樗谿公園

樗谿公園は、鳥取市の風致公園で、1912 年の長岡安平による設計書・参考図・平面図からなる樗谿公園設計図書、1916 年の原熙による平面図、1929 年の林脩巳による設計概要を知る文献が残されている。山陰線開通に合わせて企図され、長岡の設計に基づき銀行5行から公園設置のための寄付金 5,000 円が拠出されたものの、大きな動きがないまま原、林の設計へと経過した。

長岡の設計は実現をみるのがなかったが、実現した林の設計、さらにその間の原の設計を比較すると、既存の園

路や溪流などを活用した設計であることは共通するものの、施設計画に大きな違いが確認できた。ただし、その後の整備経過をたどれば長岡の見据えていた公園像へと少しずつ近づいたと評価できる。

### 2) 巖島公園

巖島公園（宮島公園）は広島県の風致公園で世界遺産として知られ、1903 年の長岡安平による設計書・平面図・踏査簿からなる設計図書、1913 年の本多静六による『巖島公園改良案』が残されている。『巖島公園改良案』は 1903 年の長岡の設計を「応用」したものとされ、収録の平面図も長岡の設計図と極めて類似性の高いものであるが、そのことが長岡の設計が実現しなかったことを類推させる。

巖島公園の設計は同時代の公園設計と比較して対象範囲が広大であり、現在は瀬戸内海国立公園に指定された自然公園の側面も有する。長岡、本多の両者の設計案はともに細密な内容で自然保全に配慮したものである。このため設計の実現においても永続する改変が少ないと考えられ、さらなる現地調査と検証を継続する。

### 3) 樞原神宮

樞原神宮は 1890 年に創祀された神社で、1940 年に明治神宮の森創建にならい神域拡張および人工林の造成がなされた。多数の文献が残されており、樞原神宮の森においても明治神宮の森に携わった技術者により、同様の理念に基づく森づくりが手がけられた。

森の造成は計画に基づき実施されたものの、人の立ち入りを禁じた明治神宮に対して 1954 年に樞原森林遊苑として市民の休養に開放されたことが、緑地として憩いの空間を提供する一方で、明治神宮に比して森の成長期間が短く想定されたことと相まって人工林の健全な成長を妨げている現況が窺える。

### 4) 高知公園・五台山公園

高知公園・五台山公園は高知県の歴史公園および風致公園で、どちらも長岡安平による 1911 年の設計平面図が残されている。高知公園は高知城址に設置された公園で、設計の一部に城址を改変する部分を確認された。五台山公園は設計平面図と現況に大きな隔たりがみられ、両公園とも長岡の設計案が実現していないことが明らかである。

## 4. 考察と課題

国民の教化、衛生、慰楽のために西欧から導入された公園は、黎明期に各地での理想にともない当時の第一人者を招聘して設計されたが、本調査研究により自然環境、文化財、社会情勢、資金、管理等様々な理由により実現に至らなかった事例が多いことが窺われる。特に資金的な課題が大きく、公園の経営を見据えた設計が重要であることが現代と共通する。

今後の課題として、黎明期の公園の現在に至る経緯をさらに明らかにすることにより、現代における公園の適切な経営への示唆が得られると考えられる。